

スタンド・アップ テイク・アクション 2013 活動報告書

STAND UP TAKE ACTION (スタンド・アップ テイク・アクション) 2013

主催：動く→動かす

協力：国際連合広報センター (UNIC)



国際連合広報センター

なんとかしなきゃ! プロジェクト



なんとか
しなきゃ!

後援：外務省、公益社団法人ガールスカウト日本連盟、教育協力 NGO ネットワーク、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワーク、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、公益財団法人世界宗教者平和会議 (WCRP) 日本委員会、公益財団法人日本ユニセフ協会、日本労働組合総連合会 (連合)、パルシステム生活協同組合連合会、公益財団法人ボーイスカウト日本連盟

助成：日蓮宗あんのん基金、立正佼成会一食平和基金、連合・愛のキャン

参加企業・組織

【学校教育関連機関】 大阪府立佐野高等学校／関西学院大学／関西学院中学部／京都学園中学校／京都府立東稜高等学校／神戸市立六甲アイランド高等学校／甲賀市立甲南中学校／成蹊大学学生ボランティア本部／洗足学園／東北大学附属図書館／同志社中学校／フェリス学院大学ボランティアセンター／不二聖心女子学院高等学校／北海道大学附属図書館 ほか

【民間団体】 (一財) 岡山県国際交流協会／香川県ユニセフ協会／工藤愛子ヨーガサンガ会／サニーサイドゴスペルクラブ／(財) 自治体国際化協会 市民国際プラザ／(公財) 仙台国際交流協会／東燃ゼネラルグループ労働組合／日本化学エネルギー産業労働組合連合会／新潟国際ボランティアセンター／HIGAKI BALLET COMPANY／北海道 YMCA／ピープル・ツリー／グローバル・ヴィレッジ ほか

【企業】 アミタホールディングス (株)／神奈川県宅地建物取引業協会横浜北支部／NECソフト (株)／大和リース (株) 浜松営業所／日本写真印刷 (株)／富士通 (株) CSR 推進部／迫りコー (株)／(株) リコー／リコーインダストリー (株)／リコーエレメックス (株)／リコークリエイティブサービス (株)／リコー光学 (株)／リコー・ジャパン (株)／リコーテクノロジー (株)／リコーリース (株)／リコーロジスティクス (株)／Y.B.Road ほか

フォトコンテストについて

フォトコンテストの受賞作品は、特別審査員と審査員団体の選考により決定しました。

特別審査員 今岡 昌子氏 (写真家)

1965 年横浜市生まれ。「Re・birth (再生)」を支柱に写真の制作活動を行う。代表作は「Re・Birth —ガレキの隣のオンナたち」「中国之路 (天山南路／茶馬古道)」「トボフィア—九州力の原像へ」ほか。2001 年 SSF 賞、2002 年さがみはら新人奨励賞、2007 年東川賞新人作家賞など。審査員歴は、「ニコ国際フォトコンテスト」「日本カメラ誌上フォトコンテスト」「読売写真大賞」「南日本写真展」「キヤノンフォトコンテスト」など。

審査員団体 (「動く→動かす」加盟団体)

(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク／(特活) ウォーターエイドジャパン／(特活) オックスファム・ジャパン／(特活) 開発教育協会／(特活) 関西国際交流団体協議会／(特活) 国際協力 NGO センター／(公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン／(特活) 日本リザルツ／(特活) ハンガー・フリー・ワールド／ほっとけない熊本プロジェクト／(特活) ピーブルズ・ホープ・ジャパン／(特活) 横浜 NGO 連絡会

【フォトコンテストご当地賞品提供団体】

以下の団体より、ご当地賞受賞者への賞品をご提供いただきました。ユニーク賞受賞者には、「動く→動かす」より記念品をお送りしました。

(特活) アーユス仏教国際協力ネットワーク／(特活) WE21 ジャパン／(特活) 開発教育協会／(特活) シェア＝国際保健協力市民の会／(特活) DPI 日本会議／(特活) チャイルド・ファンド・ジャパン

<デザイン: えびす堂 GraphicDesign>

動く→動かす
もう一歩、貧困のない世界へ

「動く→動かす」とは?

ひとりの「動く」が集まれば、大きなうねりとなってやがて世界を動かします。意志をもって行動すること

で、世界を少しずつ変えることができるのです。そんな想いを込めた民間非営利団体「動く→動かす」は、2009 年に発足した国際協力 NGO のネットワークです。2014 年 1 月現在、74 団体が加盟しています。また私たちは、ミレニアム開発目標 (MDGs) を達成して貧困問題を解決するために結成された世界に広がる市民社会ネットワーク「貧困をなくすためのグローバル・コール (GCAP)」において、日本の代表団体として活動しています。

STAND UP TAKE ACTION 活動報告書2013

【発行】動く→動かす

〒110-0015

東京都台東区東上野 1-20-6 丸幸ビル3階

特定非営利活動法人アフリカ日本協議会 気付

☎ 03-3834-6902 ☎ 03-3834-6903

✉ info@standup2015.jp

🌐 http://www.facebook.com/UgokuUgokasu

<http://www.standup2015.jp>



世界は、変えられる

2000年以降、世界中の人々が
貧困解決を目指すミレニアム開発目標（MDGs）を2015年までに達成するために
さまざまな問題の解決に取り組んできました。
そして実際に世界は変わりました。

2000年、学校に通っていない子どもの数は1億200万人。

それが2011年には5700万人に減少しました。

2000年、出生10万人あたり320人の妊産婦が死亡しました。

しかし2010年には210人に減少しました。

そんな変化への取り組みを世界中で支えてきたのが
世界中で2006年から始まったSTAND UP TAKE ACTION（スタンド・アップ）です。
毎年、国連が定めた10月17日の“世界反貧困デー”の時期に
貧困解決やMDGs達成を求める人々が立ち上がるキャンペーンです。
2013年、日本と世界のリーダーに一層の努力を求めるため

日本では3万2600人が立ち上がりました。

しかし、期限までに残された時間は短く、達成への道のりは非常に厳しいのが現実です。
私たちは、これまでの努力と成果や、それによって救うことのできた命の数や
改善できた制度・状況に胸を張るべきです。
しかし、極度の貧困と苦境からいまだ抜け出せない多くの人々を少しでも支援するため
さらなる行動をとることが求められています。

まずは立ち上がり（スタンド・アップ）
身の回りのできることから行動（テイク・アクション）してみませんか？

変化を作るのは、私たち一人一人なのです。

スタンド・アップが目指している世界

2015年までのミレニアム開発目標の達成を

ミレニアム開発目標（MDGs：Millennium Development Goals）とは、2000年9月に開かれた国連ミレニアム・サミットを経て制定された国際的な開発目標です。途上国の状況を、経済や産業ではなく、人間とその生活を中心に考え、具体的な数値目標と2015年という達成期限を定めたものです。MDGsには8つの目標があり、その下により具体的な21の目標と達成度を測る60の指標が定められています。貧困解決のために世界が一丸となって取り組むことを、世界のリーダーたちが人類史上初めて約束したという、大きな意義を持つ国際目標です。



ポスト2015年開発枠組み（ポストMDGs）をより良いものに

現在世界では、MDGs後の2016年からの開発目標として「ポスト2015年開発枠組み」が検討されています。MDGs策定の時代よりも複雑化する世界の状況と問題に対処するため、途上国と先進国の共通課題や地域別目標などが議論され、SDGs（持続可能な開発目標）との調整が進んでいます。「動く→動かす」を含む世界の市民社会組織は、問題解決にきちんとつながる枠組みができるように、政府や国連などに提言や働きかけを行っています。

現状：ここまで来ているMDGs・・・まだまだ厳しいMDGs

- * 極度の貧困にあえぐ人々の数が半減！・・・しかし、いまだに8億7千万人が飢えに苦しんでいる
- * 途上国で小学校に通う子どもの割合が90%に到達！・・・しかし、その約4分の1が卒業できない
- * 小中高校に通う男女の割合の格差は解消目前！
 - ・・・しかし、例えばサハラ以南のアフリカ諸国では、小学校に通う女兒は男児の77%（2011年、1990年は53%）と、国や地域によって大きな差がある
- * 5歳未満児死亡率は1990年比で41%減少！・・・しかし、目標である3分の2（66%）削減へは道遠し
- * 妊産婦死亡率は1990年比で46%減少！・・・しかし、目標である4分の3（75%）削減は困難とみられる
- * HIVの新規感染者数は2001年比で21%減少！・・・しかし、今も年間250万人がHIVに新たに感染している

※MDGsの現状と見通しについて詳しくは、国連発行の
「国連ミレニアム開発目標報告2013」をご覧ください。
http://www.unic.or.jp/files/MDG_Report_2013_JP.pdf



フォトコンテスト受賞作品 ご当地賞

人の暮らしの基盤となる地域やコミュニティに関連した「ご当地」スタンド・アップ。その登録写真の中から地域やコミュニティの特色をうまく表現した8枚が選ばれました。



伝統的なコミュニティで

秋のお彼岸法要にお参りの皆さんと一緒に参加しました。この活動を初めて知ったという方がほとんどですが、今回のご縁で貧困の現実を知って立ち上がったことは、貴重な一歩となりました。(千葉県/天真寺)



人と人がつながる東京の顔 東京駅前から

東京は、人と人がつながり、新しいアイデアが生まれる大きな可能性を秘めた世界有数の都市です。ここで多くの人々がつながり、助け合いながら、貧困や差別などをなくす活動を続けていきます。(東京都/IDEA FROM JAPAN)



富士山からの教え

雲に隠れてなかなか姿を現さなかった富士山。数日間粘り、その姿が一瞬見えた時にすかさず撮影しました。見えそうで見えない貧困問題にも、粘り強く、目をそむけずに向き合っていきます。(静岡県/日本大学国産寄託図書館)



清水寺で観音さまの教えに導かれ

“他者の苦しみを自らの苦しみとして共感できる心”。清水寺のご本尊である観音さまの教えを胸に、京都の団体が協力してイベントを行いました。誰もが安心して生活できる社会の実現に向け、活動を続けます。(京都府/清水寺で世界を語る)



広場の時計台のような存在になって

行き交う多くの人々の中心に目印として存在するJR大阪駅「時空(とき)の広場」の時計台。私たちもそれぞれの地域で、時計台のように人々の中心となって貧困解決に貢献できるようがんばります。(大阪/TICAD V 学生プロジェクト関西事務局)



平和都市からファンと一緒に 全国へ発信

ご当地アイドルとして、ファンのみなさん、全国のご当地アイドルの力も結集し、スタンド・アップの「伝える・声を届ける・輪を広げる」という目的を新たな方向に広めていきたいです。(広島県/MMJ)



福岡タワーとフータ君と いざ出航!

ミラーセイル(光り輝く鏡の帆)が愛称の福岡タワーを帆に見立てた船です。私たち乗組員は、学生生活を通して一人一人が役割を見つけ、貧困のない平和な未来に向けて船をこぎ続けます。(福岡県/西南学院大学 富田・小寺ゼミ)



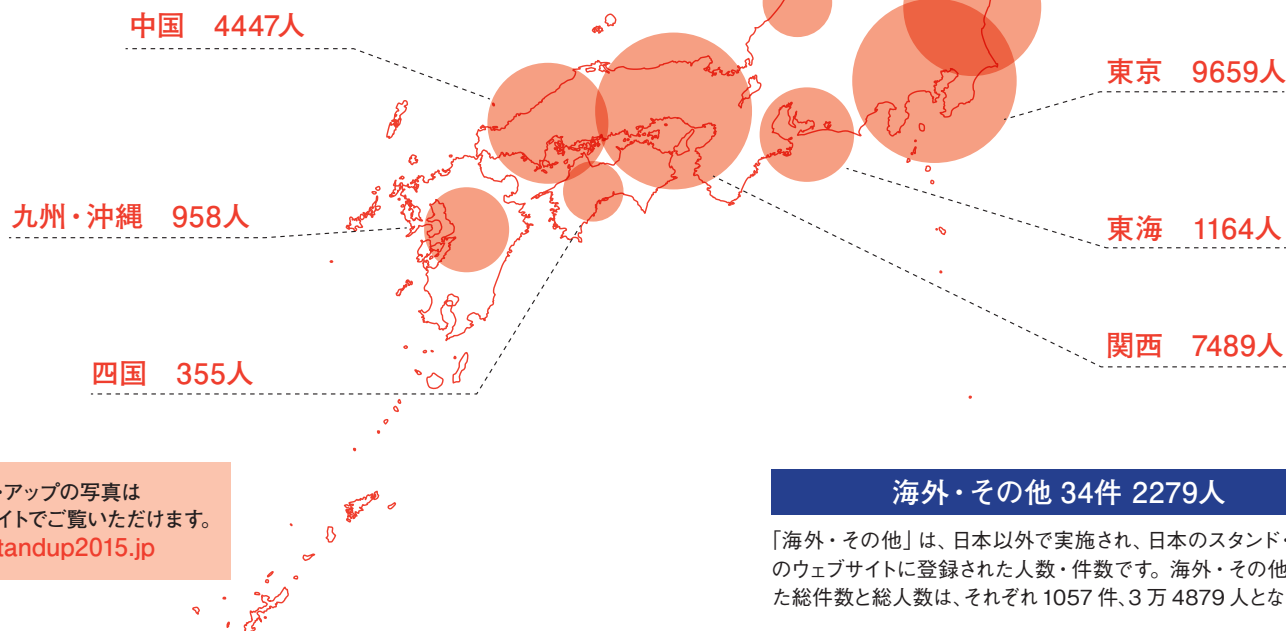
江津湖から 地域の自然の大切さも伝えたい

地下水保全の努力が評価された熊本市が、「国連 生命の水(いのちのみず) 最優秀賞」を受賞。普段は貧困や地球温暖化の問題を伝える活動をしていきますが、これからは水の大切さもアピールします!(熊本県/ほっとけい熊本プロジェクト)

スタンド・アップ 2013

9月14日(土)~10月20日(日)

日本全国から**3万2600人**の人々が参加し、**1023件**のアクションが実施されました。
2年目となったご当地スタンド・アップは、
昨年比べて参加者が倍増しました。



スタンド・アップの写真は
ウェブサイトでご覧いただけます。
www.standup2015.jp

<国内で>



サッカーJリーグ、サンフレッチェ広島の試合前の国際協力イベントでは、ご当地アイドル MMJ と一緒に 4000 人が参加。
(9/21・広島)



外務省前では、木原誠二外務大臣政務官や職員、フィリピンのスラムでボランティア活動をしたボクシングの亀田興毅選手、フィリピンと日本の元結核患者なども参加。
(10/17・東京)



日本労働組合総連合会(連合)第13回定期大会では、格差是正や安心して働ける社会を目指して 2400 人が立ち上がる。
(10/4・東京)



女子サッカーなでしこリーグの日テレ・ベレーザの選手も、練習試合前の忙しい合間を縫って、Kick Out Poverty とスタンド・アップ。
(10/17・東京)

海外・その他 34件 2279人

「海外・その他」は、日本以外で実施され、日本のスタンド・アップのウェブサイトに登録された人数・件数です。海外・その他も含めた総件数と総人数は、それぞれ1057件、3万4879人となります。



ドミニカ共和国



パキスタン



スペイン

世界の ネットワークでは

世界では、今年から Leave No One Behind (誰も取り残さない) キャンペーンが始まりました。これは、MDGs を確実に達成することと、国連・政府主導のポスト MDGs 策定プロセスに市民社会の声を届けるためのキャンペーンで、9月~10月にかけて世界各地でさまざまなイベントや取り組みが行われました。写真は上からドミニカ共和国、パキスタン、スペインの活動の様子です。

フォトコンテスト受賞作品 ユニーク賞

いつでも、どこでも、誰とでも。それがまさに表現されたバラエティーに富んだ写真が多数集まり、今年は特にユニークな8枚が選ばれ、その中の1枚が特別審査員賞を受賞しました。



60回目の想い

体育祭で毎年行う平和行進も60回を迎え、今年は世界の平和に目を向けました。自分たちのことだけでなく、世界の貧しい子どもたちのこともしっかりと考えられるようになっていきたいです。(滋賀県/甲南中学校)



インパクトのある千手で

健康的でバランスのとれた日本食をオーストラリアのブリスベンで提供しています。その売り上げの一部を途上国への支援とし、現地では健康増進プログラムに取り組んでいます。(オーストラリア/Health Holic)



95歳の誕生日に

「戦後私たちも大変な時代がありましたが、まだまだ世界には様々な問題があります。いつになったら平和な時が来るのか…(伊勢さん)」[来年も96歳の母とスタンド・アップできればいいなと思っています(伊勢さん娘)](東京都/伊勢さんと家族)



ハートをしっかり表現して

写真を見る人にも伝わるようにメッセージを考えました。貧困から生まれる多くの負の連鎖が、小さな変化をきっかけに少しでも正の連鎖に変わり、人と人とが手を取りあって起こる愛ある連鎖が生まれますように。(神奈川県/東海大学「1枚の写真から、国際協力しよう!」)



富士山に負けないように

研修の当日、あいにくの台風でしたが、どうしても富士山と一緒に写真を撮りたくて工夫しました。撮影はいろいろ大変でしたが、これからも世界遺産になった富士山に負けないよう挑戦していきます。(静岡県/ガールスカウト静岡県連盟)



華やかで調和のとれたポーズで

コールド・バレエ(群舞)では、みんなのつながりを意識しないと一体感ある素晴らしい舞台はできません。それはスタンド・アップも同じです。舞台人として、世界情勢を知るといふ、小さな一歩を踏み出しました。(京都府/HIGAKI BALLET COMPANY)



丸い地球を表して

全天球カメラに、“世界の貧困削減を”という私たちの想いをこめて撮りました。社是の“三愛精神”を胸に、東北での震災復興事業とともに、世界の貧困削減にも精一杯貢献し続けたいと思います。(宮城県/株式会社リコー 応電研)



立ち上がる子どもたちの訴え

このベト村中高一貫校のスタンド・アップでは、生徒たちのエネルギーがみなぎり、大きな熱意が伝わってきました。貧困解決に向けてさらなるアクションを起こしていきます。(ベナン/Hunger Free World Benin)

スタンド・アップ2013 主な活動

※活動の詳細、その他の活動については、「動く→動かす」のウェブサイトの「最新情報」から「活動報告」をご覧ください。

■より良い世界をつくるためのスローガン／キャンペーンロゴ 公募

ポスト2015年開発枠組みをより良いものにすべく、国や国連に働きかけるためのスローガンとキャンペーンロゴを募集しました。ロゴは残念ながら採用作品はありませんでしたが、スローガンは応募作品286点の中から次の作品が選ばれました。採用作品には、賞品としてフェアトレード グッズの詰め合わせが贈られました（賞品提供：ピープル・ツリー）。

採用：「世界は、変えられる」（貞広貴亜 18歳 神奈川県）

次点：「より良い世界 動く→動かす みんなが主役」（熊谷幸平 72歳 岩手県）

■9/11 貧困と格差のない日本と世界をつくるために、いま、できること ～「ミレニアム開発目標（MDGs）レビュー・サミット in 東京～



このイベントには約150人が参加。第一部では、早稲田大学大学院の勝間靖教授、(特活) 国際協力NGO センターの堀内葵さん、(公社) セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの堀江由美子さんに登壇いただき、MDGsに関するこれまでの取り組みと最新動向、2016年以降のポストMDGsに関する課題についてお話しいただきました。第二部は、Gender Action Platformの大崎麻子さんと社会活動家の湯浅誠さんにお話しいただいた後、(特活) オックスファム・ジャパンの山田太雲さんをモデレーターにディスカッションを行い、貧困やジェンダー平等の視点から国内問題とも結びつけて開発目標について考えました。（写真：第二部の様子、右から湯浅さん、大崎さん、山田さん）

■10/11 ネットワーキングイベント「STAND UP TAKE ACTION ～貧困のない社会に向けて一歩前へ!」



これは、国際協力に関心がある人だけでなく、社会に一定の関心がある、何かしてみたいという人も対象としたイベントです。池上清子さん（日本大学大学院 総合社会情報研究科 教授）、清野賢司さん（TENOHASI 事務局長）、モハメド・オマル・アブディンさん（スーダン障害者教育支援の会 理事）、野川未央さん（APLA 事務局スタッフ）、渡邊清孝さん（ハンガー・フリー・ワールド 理事・事務局長）、定光香さん（開発教育協会 開発教育入門講座タスクチーム ボランティア）をお招きし、それぞれ活動について簡単にお話しいただきました。その話の後は、ゲストと参加者、参加者同士が交流できる時間をとり、会場のあちこちで打ち解けた様子で交流が行われていました。ここで知り合った人同士でボランティアや講演会に出かけているという、主催者としてはうれしい報告も届いています。（写真：軽食をつまみながら交流タイム）

■10/14・19「清水寺で世界を語る～ともに生きる国際協力」



このイベントは、京都にある8つの団体など（NGO3団体、中学校2校、高校、バレエ団、企業）を「動く→動かす」が結び、清水寺の協力を得て実施されました。バレエ上演、中学生とNGOスタッフによるトークライブ、高校生ガールズバンドの弾き語り、ライブ・アート、中学生による平和に関するメッセージ集めとエコキャップ活動、NGOのブース展示など、異なる組織がそれぞれの持ち味を生かし、清水寺を訪れる人々に国際協力や身近でできる支援について紹介し、多くの人々がスタンド・アップにも参加してくれました。（写真：多くの人々が賑わう会場となった経堂前）

STAND UPの歴史

2006年 世界2354万2614人、日本2711人が参加し、世界一大きな同時アクションとしてギネス記録を樹立。

2007年 世界4371万6440人、日本4万8205人が参加。ギネス記録を更新。

2008年 世界1億1699万3629人、日本2万2698人が参加。ギネス記録を更新。

2009年 世界1億7304万5325人、日本3万3497人が参加。ギネス記録を更新。

2010年 5年に一度の「国連MDGsレビュー・サミット」直前に世界74ヵ国でアクションを実施。日本では1万8240人が参加。

2011年 日本では3万1389人が参加。「動く→動かす」の呼びかけに応じて海外からも1712人が参加。

2012年 日本で2万6563人、海外・その他も含めると2万9614人が参加。ご当地スタンド・アップを開始。

そして2013年 日本で3万2600人、海外・その他も含めると、3万4879人が参加。

今年はあなたも参加してみませんか？

スタンド・アップに参加するには

スタンド・アップは、「写真を使った署名活動」です。貧困解決やMDGsの達成、あるいはより良い社会を築くための「ポスト2015年開発枠組み」の策定を求める人であれば、誰でも参加できます。

- 期間内であれば、いつでもどこでも誰とでも参加できます。
- 友人、家族、同僚などを誘ってスタンド・アップをしましょう。



スタンド・アップの流れ		スタンド・アップ ウェブサイトからダウンロードできる便利ツール	
1	2人以上で参加する場合は、スタンド・アップをする目的や意義をみんなで共有しましょう。	宣誓文	
2	持つ物や掲げる物を用意したり、主張したいことや行動したいことなどメッセージも考えてみましょう。	書き込みツール	文字バナー
			
3 「スタンド・アップ」の掛け声とともに、ポーズをきめて写真を撮りましょう。			
4	スタンド・アップのウェブサイトから、写真や人数などを忘れずに報告しましょう。		
		「動く→動かす」は、みなさんの声を政府に届けます。	
		2013年12月3日、スタンド・アップ 2013 参加者代表は、石原外務大臣政務官（一番左）に、スタンド・アップ 2013 の実施報告書とみなさんから寄せられた「より良い世界をつくるためのスローガン募集」の応募作品リストを手渡しました。そして日本政府に対し、MDGs 達成とより良いポスト MDGs 策定に向けた一層の努力をお願いしました。	
5 スタンド・アップをしたら、テイク・アクションへ！ あなたにできること（参加者から寄せられたアクション）			
*家族や友人に、世界で起きていることを伝えます。 *Facebookやツイッターで、情報を共有します。 *フェアトレード商品を選んで購入します。 *会社での社会貢献活動、仕事を通じて途上国に貢献します。 *NGOの講演会などに行って勉強します。 *学校や地域のボランティア活動に参加します。 *チャリティーイベントを開いて、寄付を集めます。 *書き損じはがき、古本、CD等を回収して寄付します。			
6	そして、チラシ、ポストカード、口コミ、SNSなどでMDGsのことやスタンド・アップのことを広めてください！	チラシ	ポストカード
			

このほかに、ポスター、参加の手引き（ヒントが詰まったマニュアル）、授業の手引き（学校の授業や、社会人グループの学習会で使える教材）、紹介用動画もダウンロードできます。

参加者の声

- *サークル内で飢餓・貧困について、自分たちに何ができるか考えました。
- *食べ物がたくさんある便利な社会の裏側に想いをはせよう……
- *営業所内でスタンド・アップのチラシを読み、企業として貧困撲滅・ミレニアム開発目標達成に貢献できることを考えるきっかけとなりました。
- *貧困のため、私たちと同年代の子どもたちが学校に行けないことを知りました。家族や友達に伝えることから始めます。